

Weekly コラム

平成 27 年 1 月 27 日

〒541-0055 大阪府中央区船場中央 2-1

船場センタービル 4 号館 4 階

船場経済倶楽部

Tel 06-6261-8000

(NPO 法人 SKC 企業振興連盟協議会)

Fax 06-6261-6539

人の輪・衆智・繁栄

活動方針



当団体は、異なる業種の経営者が相集い、力を合わせ、自らの研鑽と親睦を通じて、斬新な経営感覚と新たな販売促進を創造して、メンバー同士でより健全な事業所とその事業所のイメージアップを図り、地域社会に貢献できる事業所となることを目的とする。

ドバイの商機

中東に位置するアラブ首長国連邦のひとつであるドバイ。砂漠地帯というイメージを覆し、今では世界屈指の観光地、経済拠点へと急成長し、世界中から「人・物・金」が集まる近代都市であることは皆様もご存知のことと思います。また、世界でもトップクラスの親日国で、ドバイ国際空港に拠点を置くエミレーツ航空のCAのうち約 300 人が日本人とも言われています。しかしながら、世界各国が先を競ってドバイ市場に参入する中で、日本企業はまだまだ乗り遅れていると言われています。

東京ドーム 23 個分、1200 店舗が出店し、1 日 18 万人が訪れる世界最大のショッピングモールがドバイモールです。ここに出店する日本企業は、わずか 11 店舗と 1% もありません。もちろん、現在 400 以上の企業が出店待ちとなっているほど、厳しい基準がありますが、基準をクリアしている企業が存在するのも事実です。その厳しい基準の中に、今ではイスラム圏のビジネスでは当たり前となっているイスラム法があります。全てにおいてハラール(合法)であるか、ハラーム(非合法)であるかに基準が置かれ、ビジネスの上では非常に面倒な基準と言えます。ただ、ハラールと言っても 2 つの意味があります。1 つ目がイスラム法、もう 1 つが健康的で清潔、安全、高品質、高栄養価であることです。この 2 つ目の基準に、日本の商機がありそうです。

例えば、日本では当たり前となっている個別包装。ドバイモールに出店するヨックモックは、現地のお菓子里に比べて甘さが控えめ(健康志向)で、個別包装されて清潔という点で現地の支持を得ました。さらに、販売方法にも日本らしさが出されています。

日本でも世界各国から見れば過剰と言える包装ですが、アラブでは商品の陳列や包装が桁違いに豪華なのです。こうした中で、ドバイで意外な成功を収めた日本企業がパン屋です。焼きそばパンがエメラルドグリーンの箱に入れられ、それが大人気というからお驚きです。また「Made in Japan」を意識させるような和風のディスプレイもさることながら、接客面では両手でドアを開ける、また指を揃えて商品を差し出すなど、現地スタッフにも日本流のおもてなし精神が徹底されています。

このように、親日国であるからかもしれませんが、イスラム法におけるハラールは、日本の文化、習慣に類似している点も多いように感じます。もっと簡単に言えば、人間が健康で安全な生活を送るためのルールと言え、その先には日本のわび・さび、おもてなしの心があると思います。そういった意味で、「人・物・金」が集まるドバイにおける日本の商機は、まだまだ十分に見出せそうです。



記事の内容に関するお問い合わせは事務局までご連絡ください。

ウィークリーはメールでの配信も行っております。お手数ですが、「メール希望」・「配信停止希望」と件名にご入力の上、yasukouchi@skc.ne.jp まで空メールをご送信ください。また、FAX ご不要の際は、その旨をお電話にてお申しつけください。